

会報

No. 77

平成20(2008)年11月15日

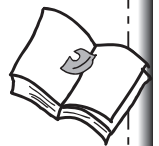
京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655

新しい職場で思うこと

精華町立図書館館長 卯滝清春



「精華町の図書館に」と声をかけていただき、小山前館長の後を引き継いで京都の公共図書館で仕事をさせていただけると、幸せに思っております。

町長との出会いは、「この町は図書館を大切にしているから、よろしく頼みますよ……」という言葉からでした。開架室の利用者からは「図書館はわたしたちの誇りです……」と。胸が熱くなりました。子どもも大切に「子どもを守る町」宣言の町。なによりも住民の自治意識の大切さを思い、町政の舵取りをされている。そんな町の姿勢が「自分のまちに誇りが持てる、地域のコミュニティを大切にしたい」、住民主体の行政」をつくっていくのでしよう。



住民の豊かな暮らしとまちの発展、主体は住民。その礎を築くのが図書館。めざすところは同じだと強く感じました。

住民の声を綴ったファイルに、「当初は雲をつかむようなものでしたが、いろんな本との出会い、資料との出会いのなかで……ここまで調べることができました。図書館というお仕事の大切さ、すばらしさを再認識させて頂きました……一人の人間が多くの人々に支えられていることを実感いたしました……」という手紙がありました。たくさんの方の住民の声に、一つ一つ丁寧に応えて、対話の中で利用者と資料を結び職員集団。歴代の館長と司書が利用者と職員の距離を縮めようと努力してきた結果でしょう。住民の願う図書館づくりにとって一番大切なことだと思います。住民の願いやまちづくりの課題を解決するために、資料や集まりの場を提供する。住民の自主的な活動をサポートするのが図書館です。図書館員と利用者との対話があ

る日々の活動の中で、図書館が、図書館員が何を学ぶべきかを高め、そして、そんな個々の図書館のサービスを更に高めるために、図書館間の協力が不可欠なのだと思います。京府連協のネットワークによって、資料の相互利用はもとより、研修や子どもの読書活動の推進、広報活動などをおして、京都府内の図書館員が結ばれ、個々の図書館の水準を高め、公共図書館の存在を府民の中に深め掘り上げて来たのだと思います。

前川恒雄さんを委員長として策定された、精華町立図書館の「基本構想」、「よく選ばれた本との出会いによって、人は自ら考え自立し行動できる人間となること」が「図書館資料を提供することは、自由で民主的な町政をすすめるための条件であり、町民の知的水準をあげ、暮らしを高め、まちの発展の基礎となる」を活動の原点に、「日本の公共図書館の先輩達が築いてこられたことに学び、広域利用の協定を結んでいく近隣の図書館、京府連協のみならずの支えと、住民の新たな声にもしっかりと耳を傾け、暮らしの中に根付いた図書館を目指したいと思えます。厳しい状況だからこそ、揺るぐことなく。

第十七回 京都図書館大会開催される

図書館からのアプローチ〜新たな広報戦略〜

(平成二十年九月三日 同志社大学)

第十七回京都図書館大会が、一四二名の参加を得て、「図書館からのアプローチ〜新たな広報戦略」をテーマに去る九月三日(水)に同志社大学寒梅館ハーディーホールで開催されました。

午前は、ACADEMIC RESOURCE GUIDE 編集長の岡本真氏から、「いま図書館に求められる新たなウェブ活用戦略」と題して基調講演がありました。

岡本氏は、図書館では、様々な媒体を使い広報活動を行っているが、図書館と利用者との間で様々なずれが生じているため図書館の存在が見えてこない。図書館主体の視点から利用者主体の視点へ転換することが必要であり、図書館の中だけで広報するよりも、日常生活のありとあらゆる場面に情報を遍在させることが大切であると述べられました。

午後は、広報活動の事例について発表がありました。京都大学医学図書館の山本奈美氏からは、情報リテラシー教育について広報の視点から取り組み内容について紹介されました。京都市右京中央図書館の田中

せつ子氏からは、六月三十日に開館

した右京中央図書館の新しい図書館サービス等について紹介され、いろんな方に知ってもらえるよう、利用者の視点に立って広報をしていきたいと発表されました。京都府立東舞鶴高等学校の高井睦氏から、双方方向のコミュニケーションとして「みんなの好きなフレーズ」や「特製しおり」など利用者を巻き込んだ広報活動の取組事例を紹介されました。

終了後のアンケートからは、「広報に対する新しい視点を知ることができた」「館種によって色々な広報の取組みがあることがわかった」など広報活動の重要性の再認識や意識向上がみられるアンケート結果となり、今後に生かせる内容の大会となりました。

小さい図書室ですが、

よろしくお願ひします

大山崎町立中央公民館図書室長

山野 健一

大山崎町は大阪府と京都府の境に位置し、町の東南には桂川、宇治川、木津川が合流した淀川が流れ、西には豊臣秀吉と明智光秀が戦ったことで知られる天王山がひろがっています。そして、その間の平野部分に、京都府内で最も面積の狭いこの町の規模と同じように小さな公民館図書室があります。

図書室ができてからの三十年余りの間に、内部移転をし、少しは大きくなりましたが狭いことには変わりなく、近年の利用者の急増により利用者の期待にこたえることにも四苦八苦、人手の少なさに息切れ状態です。又、図書データのベース化も未だなので、他の図書館や読書施設さんと比べて、色々苦労することが多くあります。しかし、加盟館のみなさまの支えのおかげで、なんとかやってくることができました。この場を借りまして、深く感謝を申し上げます。

さて、そんな状態でありながらも、町民のみなさんにもっと利用される図書室をめざし、府立図書館の

協力の下、この夏にははじめて、昆虫の本を集めた展示と昆虫折紙教室、先日までは公民館の行事の一環として『源氏物語』のパネル展示、図書展示を行いました。いつもとは違う目新しい出来事に驚かれた方もいらっしやいましたが、どこことなく楽しい雰囲気になりました。はじめてのことに戸惑いもあり、終わってしまえばまだまだ改善の余地があると反省することばかりです。

これからは町民の間に、より図書室が浸透するように工夫をしていきたいと思ひます。どうぞ、ご指導お願ひいたします。



「YAコーナー…って？」

木津川市立図書館長
阪口 守



木津川市立図書館は、平成十九年三月の合併により、一市に図書館を三館と一分室を持つ市となりました。昨年の七月より三館の共通な取組みとしまして、「多感な年頃に、心に響く本に出会ってほしい。」という思いからティーンエイジャー向けに特設コーナーとして「ヤングアダルトコーナー」を設けました。

中央、加茂、山城の市立三図書館の職員が共同で「おすすめリスト」を作成し、小説・ファンタジー編などを、昨年には二種類計五十冊を紹介し、今年の夏には、さらに十八冊の追加紹介冊子を発行しました。

コーナーには文学だけではなく進路や趣味、哲学などに関する書籍も含めて二千六十四冊を独自に「YA本」に選定し、特設コーナーとしました。「バッテリー」「一瞬の風になれ」「精霊の守り人」等々、また約五百の職業を載せた「13歳のハローワーク」など予約を入れないと借りられないぐらい好評を得て、一冊平均二・二三回の貸出があり、予想を上回る人気で図書館といたしまして



嬉しい限りです。

「一つ」から「九つ」まで年齢の数え方で「つ」の付く間は、読み聞かせも含めて親が責任を持つて育てることが大切ですが、十代からは自分で将来の指針を模索する時期でもあります。

若いころ感動した本は将来の指針として心に必ず残ります。塾やクラブ活動で図書館から遠のきがちな年頃の子が、「ちょっと図書館へ…。」と立ち寄ってもらえるよう幅広く資料を充実させていきたいと思っています。

是非、一度のぞいてみてください。

図書館システム統合を終えて

京丹後市立図書館長
松岡 豊美

平成二十年七月二日をもって、京丹後市立図書館は念願の図書館システム統合を終えることができました。

統合することによって、一枚の利用者カードで、どこで借りても返してもよくなり、多くの利用者から「とても便利になった」と喜んでいただいています。予想どおり、借りた図書館以外で本を返される利用者も多く、本の配送を市役所の文書便を利用して関係上、「うれしい悲鳴」を上げている状況です。

三月に峰山図書館・あみの図書館、平成二十年度に入ってから四つの分館を順次統合していきました。それに伴い、今までシステムの違いからできていなかった部分の業務の統一と、職員の共通理解や意思統一を図るための職員会議の回数を増やしています。

全館の統合後に夏休みを迎えたわけですが、八月の利用状況は、昨年度は六館合計で三万五千冊（点）であるのに対して、今年度は初めて四万冊（点）を超えました。どの館

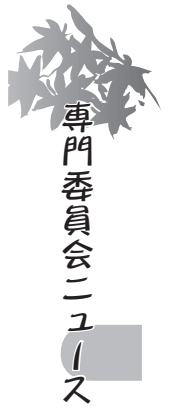
もそれぞれ利用が増えている中でも、市の中心地にある峰山図書館と大宮図書室の増加率が高くなっています。

「いかにして図書館へ足を運んでもらうか」を考え、いろいろな工夫をしている中、システム統合によって度々広報などをする事によって、図書館に対する市民の関心も得られ、便利になった図書館を受け入れていただいたように感じています。

市域が広い京丹後市では、子どもや高齢者などが図書館を利用するのはなかなか困難な面がありますが、今の状況が続く、さらに利用が増えるよう、使いやすい・役に立つ図書館を目指してサービスの充実を図っていきたくと考えています。



新利用者カードには、京丹後市出身の絵本作家 梅田俊作さんの『まんげつの海』の表紙の画像を使わせていただきました。



◇ 研修研究委員会 ◇

七月三日の第一回委員会の協議に基づき、各ブロックで実務研修会の開催に向けて取り組んでいます。多くのの方々のご参加をお待ちしています。

☆ 中部会場 ☆

平成二十年十一月十三日(木)

十四時～十六時半

場所 京都市右京中央図書館

第一・第二研修室

講師 慶応義塾大学 文学部教授

田村 俊作氏

テーマ 「利用者とのより良い関係を
目指して～相手の真意を汲み
取る、聞き上手になる～」

講演終了後、京都市右京中央図書館
の施設見学を実施

☆ 南部会場 ☆

(読書ボランティア養成支援事業)

平成二十年十二月七日(日)

十三時半～十六時

場所 長岡京市立図書館 大会議室

講師 科学とあそびの会

小竹 愛子氏・小野 操子氏

内容 科学あそびの講演と実演・実
習(予定)

◆ 北部地区実務研修会

十月十七日(金)に「書店から学ぶ魅力ある図書館運営」をテーマに二十四名の参加を得て、みやび歴史の館において開催しました。講師のジュンク堂書店大阪本店店長の福嶋聡氏から、「出会いの場としての図書館と書店」として共通する理念について、また、書店人として経験して来られた様々な話がありました。参加者からは活発な質問が寄せられ、図書館に活かせるヒントを多く得ることができた有意義な研修会となりました。

◇ 相互協力委員会 ◇

平成二十年度拡大相互協力委員会
が平成二十年十月八日(水)京都市
右京中央図書館において開催されま
した。

主な内容として、京都府図書館総
合目録関連では、府立図書館のシス
テム更新に向け、五月から七月にか
けて行ったアンケートの結果につい
て報告されました。

相互協力委員会事業では、府立図
書館が九月から実施している学校支
援セット貸出についての説明、図書
館・読書施設等職員研修の実施状況
報告、「図書館協力における現物貸
借で借り受けた図書の複製に関する
ガイドライン」についての府内市町
村図書館の取り扱いについての確認
をそれぞれ行いました。

その他、図書館業務について情報
交換がなされました。
また、委員会終了後、六月三十日
にオープンした京都市右京中央図書
館の館内見学を行いました。

今年度の会議としては、相互協力
実務担当者会議の開催を予定してい
ます。

◇ 広報委員会 ◇

平成二十年度の第二回広報委員会
を九月十一日(木)に府立図書館で
開催し、会報七十七号の編集等につ
いて協議しました。

★ 編集子 ★

今回は、特集記事として各
図書館の取り組み紹介と九月
に行われました第十七回京都
図書館大会の報告を中心に掲
載しております。

今年の京都図書館大会では
「図書館からのアプローチ」
新たな広報戦略」をテーマ
に開催されましたが、これか
らの図書館運営を考える上で、
それぞれの地域のニーズに
あったアプローチの仕方が大
事であり、受身から攻めへの
変換が求められているのでは
ないでしょうか。

については各図書館で行われ
ている様々な地域等へのアプ
ローチの取り組み状況を広報
委員や事務局にお知らせいた
だき、広報誌を通じて情報発
信ができればと願っております。

